

認知症予防の新しいかたち——

ひなたバディが、毎日の話し相手になる

日本認知症予防協会、高齢者向け AI 音声会話サービス

『ひなたバディ』を株式会社ウェスタナと共同開発

——モニター募集を開始

～日本認知症予防協会の知見 × 最新 AI 技術で、「毎日が楽しく、生き生きとした生活」を支える音声会話サービスを共同開発。モニターとして一緒にサービスを育てていただける方を募集します～



ひなたバディ



※本画像は生成 AI によって作成されたイメージです。

一般社団法人日本認知症予防協会（所在地：大阪市、代表理事：佐々木誠）と、AI 開発・導入支援の株式会社ウェスタナ（所在地：神戸市、代表取締役：井上勝典）は、高齢者向け AI 音声会話サービス『ひなたバディ™』を共同開発したことを発表いたします。あわせて、正式リリースに先立ち、サービスを一緒に育てていただけるモニターの募集を開始いたします。

『ひなたバディ』は、ボタンをひとつ押せば AI の方から話しかけてくれる音声会話サービスです。「昨日ええことあった？」「今日はええ天気やなあ」——まるで気心の知れた友人のように、利用者に寄り添い、会話を通じて認知症予防につながる日常を自然に支えます。

認知症高齢者 約 472 万人 2025 年推計	独居高齢者 約 933 万世帯 2025 年 国民生活基礎調査	つながりが多いと リスク 46 %減 国立長寿研究
---------------------------------------	--	--

1 開発の背景——「話し相手がいない」という静かな危機

厚生労働省が2024年に公表した最新の将来推計によれば、2025年時点で認知症の高齢者は約472万人。さらに、2022年時点で認知症とその前段階とされる軽度認知障害（MCI）を合わせると、65歳以上の約28%——およそ4人に1人が該当するとされています。一方、核家族化と高齢化により、65歳以上の一人暮らし世帯は全国で約933万世帯に達しています（2025年 国民生活基礎調査）。人との会話や交流の機会が限られる高齢者は少なくありません。

国立長寿医療研究センターなどの研究グループが約1万4千人を9年以上にわたり追跡した調査では、配偶者や同居家族とのやりとり、友人との交流、地域活動への参加、就労といった社会的なつながりを多く持つ高齢者は、認知症の発症リスクが最大46%低いことが示されています。会話は単なるコミュニケーションではなく、認知機能の維持に役立つ可能性がある、身近な生活習慣のひとつと考えられています。

しかし、既存の見守りサービスの多くは「受動的」です。センサーで異常を検知する、カメラで様子を見る——いずれも「何かが起きた後」の対応であり、日常的に高齢者の生活を豊かにするものではありません。

『ひなたバディ』は、この課題に「会話そのもの」で応えます。ボタンをひとつ押せば、AIが話しかけ、笑い、共感してくれる。見守るのではなく、一緒に過ごす。それが『ひなたバディ』の目指す認知症予防の新しいかたちです。

2 『ひなたバディ』の特長——「話し相手」を超えた、3つの価値

① ボタンをひとつ押すだけ。あとはAIが話しかけてくれる

文字を打つ必要も、話題を用意する必要もありません。アプリを起動してボタンをタップすると、ひなたバディの方から「おはよう、昨日ええことあった？」と声をかけてくれます。会話が途切れたときもAIが自然に次の話題を振ってくれるため、「何を話せばいいかわからない」という戸惑いがありません。3人の個性豊かなAIキャラクターが、まるで気心の知れた友人のように毎日の会話を届けます。Google最新のAI音声技術により、電話のように自然な双方向の会話の実現しています。



左：AIキャラクター「ハルト」との会話画面 右：テキスト表示モード※キャラクター画像は生成AIで作成しています。画面は開発中のものです。

② 認知症予防の専門知見が、会話の「土台」に

日本認知症予防協会の監修のもと、回想法、運動、社会参加、食事など、認知症予防に関する研究知見を踏まえ、AIの会話設計に反映しています。AIが「認知症の専門家」のように振る舞うのではなく、日常会話の中で自然と予防につながる話題を織り交ぜます。利用者が「楽しく話していたら、知らず知らずのうちに予防になっていた」——そんな体験を目指しています。



スマートフォンに話しかけるだけ。特別な操作はありません。※本画像は生成AIによって作成されたイメージです。

③ 家族が「今日の様子」をいつでも確認できる

離れて暮らす家族向けに、専用のダッシュボードをご用意しています。AIが会話の内容を分析し、「今日の会話の雰囲気」「よく話していた話題」「気になる点」「健康面で気になる言及」を、温かい言葉でお伝えします。過去30日分の会話の傾向もカレンダー形式で確認でき、日々の変化を見守ることができます。



離れて暮らしていても、家族はいつでも「今日の様子」を確認できます。※本画像は生成AIによって作成されたイメージです。

※本リリースで紹介する研究知見は、社会的なつながりや活動全般と認知症リスクに関する既存の学術研究に基づくものであり、『ひなたバディ』利用による認知症予防効果を証明するものではありません。

3 モニター募集のご案内

正式リリースに先立ち、『ひなたバディ』を日常的にお使いいただき、ご意見・ご感想をお寄せい

ただけるモニターを募集いたします。ご利用環境などを確認のうえ選考させていただきますので、ご希望に添えない場合がございます。

募集人数	20 名 ※応募状況にかかわらず選考のうえ決定いたします
対象	65 歳以上の方とご家族
モニター期間	2026 年 10 月～2026 年 12 月（3 ヶ月間）
費用	無料（通信料はご負担ください）
必要なもの	スマートフォン（iPhone / Android）とインターネット環境
お申し込み	https://forms.gle/jRn9oJqiVdW36WkR7

正式リリースの時期および料金は、決定次第お知らせいたします。

4 サービス名『ひなたバディ』に込めた想い

「ひなた」は、日向ぼっこの「ひなた」です。縁側や窓辺で日の光を浴びながら過ごす、あの何気ない時間。特別なことは何もないけれど、心がほどけていく——高齢者の毎日にそんな時間が増えてほしい、という願いを込めました。

「バディ」は、相棒という意味の言葉です。見守る側と見守られる側という関係ではなく、隣に座って一緒に過ごす存在でありたい。介護や支援ではなく、対等な話し相手として寄り添いたいという姿勢を表しています。

認知症予防という言葉には、どうしても身構えてしまう響きがあります。だからこそサービスの名前には、症状や衰えを想起させる言葉を一切入れませんでした。ご本人もご家族も、気負わず口にできる名前であること。「今日もひなたと話した」と自然に言ってもらえること。それが『ひなたバディ』という名前に託した、いちばんの願いです。

5 なぜ今か——AI 技術の進化が「寄り添い」を可能にした

従来の AI 会話サービスは、テキストベースの「チャットボット」が主流でした。しかし、高齢者にとってスマートフォンで文字を打つことは大きなハードルです。

2025 年以降、Google の AI 音声技術をはじめとするリアルタイム音声 AI 技術が急速に進化し、電話のように自然な双方向の音声会話が技術的に実現可能になりました。『ひなたバディ』はこの技術革新をいち早く取り入れ、高齢者が最も慣れ親しんだ「声で話す」というインターフェースで、AI 技術の恩恵を届けます。

さらに、日本認知症予防協会が長年蓄積してきた認知症予防に関する研究知見と、最新 AI 技術を融合させることで、単なるおしゃべりではない「意味のある会話」を提供しています。楽しく話しているうちに、認知症予防につながる——この体験を、AI 技術と研究知見の掛け合わせで目指しました。

団体情報・お問い合わせ先

一般社団法人日本認知症予防協会

所在地	〒532-0011 大阪市淀川区西中島 7-7-2 新大阪ビル西館 3 階
代表理事	佐々木 誠
事業内容	認知症予防の啓発活動（MCI 専門士資格認定、講演・セミナー、企業とのコラボレーションなど）
公式 URL	https://www.mci-j.com/

株式会社ウェスタナ（AI 開発）

所在地	〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中 6-9 神戸ファッションマート 7F
代表取締役	井上 勝典
事業内容	神戸発、関西の中小企業の AI 活用を一貫支援。生成 AI の導入・研修・業務効率化コンサルティングから、AI エージェント・音声 AI の開発まで。経産省スマート SME サポーター認定、ひょうご産業活性化センター登録専門家。
公式 URL	https://www.westana.co.jp

※「ひなたバディ」およびロゴは、一般社団法人日本認知症予防協会の商標出願中です。